

平成 29 年度農林水産情報交流ネットワーク事業情報交流モニター交流会の概要

北陸農政局では、農林水産情報ネットワーク事業の生産者（農業・漁業・林業）モニター、流通加工業者モニター、消費者モニター相互の情報交流及び農林水産省との人的ネットワークの構築を図ることを目的とし、平成 29 年 11 月 29 日（水曜日）に石川県政記念しいのき迎賓館において、「平成 29 年度農林水産情報交流ネットワーク事業情報交流モニター交流会」を開催しました。

開催日時及び場所

- ・日時：平成 29 年 11 月 29 日水曜日 13 時 20 分～16 時 00 分
- ・場所：石川県政記念しいのき迎賓館（金沢市広坂 2-1-1）

参加者

- ・外部講師 1 名（有限会社梅香園）
- ・モニター 合計 23 名 生産者モニター4 名、流通加工業者モニター1 名、消費者モニター18 名
- ・北陸農政局 11 名（春日局次長ほか 10 名）

交流会のテーマ及び情報提供と講演題名

- ・テーマ「農業経営に女性の力（知恵、技、経験）を活かしていくために」
 - 1 農業における女性をめぐる現状について
（説明者：経営・事業支援部 経営支援課）
 - 2 「女性農業者の活躍推進と農業女子プロジェクト等に関する意識・意向調査」に関するアンケートの概要について
（説明者：統計部 統計企画課）
 - 3 女性ならではの感性を活かした6次産業化
（講演者：有限会社梅香園 梅本取締役）

交流会の概要

局次長あいさつの概要

女性農業経営者の育成や女性のビジネス発展を支援し女性の視点を活かした新商品の開発や販路開拓等の取組を支援するなどの施策等を推進していくことが、農業の多様な担い手を確保し将来に向けた食料の安定供給と地域の活性化に繋がるとのあいさつを行った。



あいさつを行う春日局次長

情報提供及び講演の概要

《情報提供》

北陸農政局経営・事業支援部経営支援課

「農業における女性をめぐる現状について」

基幹的農業従事者の約43%を占める女性農業者の活躍推進等を図るため、社会全体で女性農業者の存在感を高め、経済力の向上を図るとともに、農山漁村における男女共同参画の機運の一層の醸成及び女性による農山漁村の活性化の取組を推進していくことが必要と説明した。



北陸農政局統計部統計企画課

「“女性農業者の活躍推進と農業女子プロジェクト等に関する意識・意向調査”の調査結果の概要について」

全国の農林水産情報交流ネットワーク事業モニター（2,992人）から回答を得た「全国調査の概要」（農業経営における女性農業者の役割、女性農業者の活躍推進、農業女子プロジェクトの認知度及び推進に当たっての重点事項など）について説明した。



《講演》

有限会社梅香園 梅本取締役

「女性ならではの感性を活かした6次産業化」

農業経営の変遷を踏まえて6次産業化を取り組むに至った経緯や取組内容（6次産業化整備支援事業で開設した「米粉カフェ梅香」、介護予防教室や障害者支援活動、プリザーブドフラワーやアロマセラピー及び寄せ植え教室などの各種カルチャー教室の開催、観光農園や野菜栽培・収穫体験）及び自らの農業経営への思いと後継者育成に向けた研修生の受入・指導等について講演された。



講演する梅本取締役

意見交換会の概要

意見交換では、テーマが「農業経営に女性の力(知恵、技、経験)を活かしていくために」であったことから、生産者モニターと消費者・流通加工業者モニターとで、立場や関わり具合の違いにより、以下のような意見が出された。

生産者モニターからの意見

農業の現場では、以前から女性(妻)は重要なパートナーとして参加してくれている。しかし、加齢により妻が体調を崩してからは、パートタイマーを雇って南瓜栽培を行っている。6次産業化などにも取り組んでみたいが、年齢と妻の体調などから不安があり踏み出せない。

流通加工業者モニターからの意見

農家レストランを営んでいるが、自分は農作業をあまり手伝っていない。男女共同参画社会に向けた男性対象の料理教室を開催することが契機となり、グリーンツーリズムに繋がる取組にと夫の作った農産物を使った農家レストランを始めた。夫の作ったものを美味しく食べてもらうために勉強しているし、夫もレストランを手伝ってくれる。家庭の中から男女が協力し合うことが大切だと思う。

消費者モニターからの意見

農業で女性の経営参加を多くするには、男女共同参画で経済的地位の向上に向けて家族経営協定をやっていかなければ、増えていかないし、浸透していかないのではないかと。『農業において女性の経営参画は必要であるが、家庭のもっと他のところに必要なところがある。』との認識から抜け出られない男性農業経営者の意識を変えることが、最も大事だと思う。

有機や無農薬栽培など、こだわりを持って栽培した農産物のなかには、見た目が悪い等の理由で販売できないものもあるが、廃棄したくないので、私が主宰する料理教室の調理食材にと、無料で提供してくれる女性生産者がここ十数年でかなり増加している。私も高齢で、これから対策を企画することもできないが、一緒になってアイデアを出していきたいと考えている。

ツイッターを使用して農林水産省をフォローしているが、過去1ヶ月間、農業女子プロジェクトのツイートは1件も見られない。ツイッターを使用して農業女子プロジェクトについて発信するなど、工夫して取り組んで欲しい。



意見交換会の様子

—お問い合わせ先—

統計部統計企画課 情報調整官

代表:076-263-2161(内線 3625)

ダイヤルイン:076-232-4892

FAX:076-234-8332